

事務事業名	住民基本台帳統計報告事務		所属部局	市民部		単位番号	4063																								
			所属課室	窓口サービス課		課長名	望月 常美																								
			所属担当	市民窓口担当		担当者名	中込 恵津子																								
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目																				
		21	快適生活環境の整備		01	一般	0	2	0	3	0	1	0	1	2	0	3														
政策		34	窓口サービスの向上	事業区分	☒ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☒ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金																										
施策																															
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 年度 ☐ 期間限定複数年度 (年度) 年度			法令根拠	山梨県統計調査条例、山梨県常住人口調査規則																										
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (22年度)																											
	国勢調査間における、毎月1日現在の人口・世帯の異動を明らかにして、各種行政施策の基礎資料とする。 (事業費の内訳) 消耗品費、印刷製本費 平成23年度より事務事業としては継続するが、予算の計上はしない。			<table border="1"> <tr> <th>項目(細節)</th> <th>金額(千円)</th> <th>項目(細節)</th> <th>金額(千円)</th> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>30</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>計</td> <td>30</td> </tr> </table>								項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)	消耗品費	30													計	30
	項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)																											
	消耗品費	30																													
		計	30																												

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	住民基本台帳統計報告事務 ①毎月1日現在の人口・世帯数及び1ヶ月間の出生数、死亡者数、転入・転出者数を県に報告
22年度活動実績	21年度活動実績と同様に事務を円滑に進めていく
23年度活動予定	
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	住民基本台帳登録者、外国人登録者
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	市町村毎の人口及び世帯の異動状況を明らかにする
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	・各種行政施策上の基礎資料 ・将来推計人口等の基礎資料

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 出生者数	人
	イ 死亡者数	人
	ウ 転入・転出者数	人
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 住民基本台帳登録者数	人
	イ 外国人登録者数	人
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 住民基本台帳年報	件
	イ 毎月1日現在人口集計結果表	件
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 基礎資料を利用する割合	%
	イ	

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳									
		国庫支出金	千円								
		県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
	一般財源	千円		41	30						
	事業費計 (A)	千円	0	41	30	0	0	0	0		
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1					
		延べ業務時間	時間	1,056	960	960					
		人件費計 (B)	千円	4,711	4,283	3,804	0	0	0	0	
(A)+(B)		千円	4,711	4,324	3,834	0	0	0	0		
活動指標	ア	人	596.0	606.0	580.0	580.0	580.0	580.0			
	イ	人	594.0	653.0	738.0	738.0	738.0	738.0			
	ウ	人	4,532.0	4,159.0	4,051.0	4,051.0	4,051.0	4,051.0			
対象指標	ア	人	72,869.0	73,014.0	72,854.0	72,854.0	72,854.0	72,854.0			
	イ	人	1,277.0	1,155.0	1,157.0	1,157.0	1,157.0	1,157.0			
	ウ										
成果指標	ア	件	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0			
	イ	件	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0			
	ウ										
上位成果指標	ア	%									
	イ										

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	未把握
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	未把握
③ 事務事業に対して関係者 (市民、事業対象者、議会等) からどんな意見・要望が寄せられているか?	未把握

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☒ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	県から指定された書式にて報告をしている
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	事務経費の効率化を図り、予算削減を行った。

事務事業名	住民基本台帳統計報告事務	所属部	市民部	所属課	窓口サービス課
-------	--------------	-----	-----	-----	---------

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由↓] 県からの委任事務である。政策体系に結びついている。	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由↓] 県からの委任事務である。	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由↓] 県からの委任事務である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由↓] 県からの委任事務である。	
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 統合・連携ができない ⇒ [理由↓] 県からの委任事務である。	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容↓] 県からの委任事務である。	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由↓] 県からの委任事務である。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 事務処理に必要な最低限の事業費である	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 事務処理に必要な最小限の人件費である。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由↓] 受益者負担はない。	

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	県の委任事務を正確に執行することで、市の信頼にもつながるため、引き続き正確な報告が求められる。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
① 平成23年から予算計上しない。 ② 事業には予算をかけず、執行していく。 ③																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
①なし ② ③	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>対象外</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	対象外	コスト削減優先度評価結果	対象外																	
成果優先度評価結果	対象外																					
コスト削減優先度評価結果	対象外																					